

## DKアルコフォーム（6-6）（耐寒型） 非PFOS

DKアルコフォーム（6-6）は、石油類火災用のたん白泡消火薬剤として国家検定規格「泡消火薬剤の技術上の規格を定める省令（自治省令第26号：昭和50年12月9日）」に適合し、型式承認されており、水溶性液体危険物火災にも有効です。

明 細	商品名	DKアルコフォーム（6-6）
型 式		たん白泡6%（-10℃～+30℃）
型 式 番 号		泡第13～6号
使 用 温 度 範 囲		-10℃～+30℃
使 用 濃 度		6%

### 特長

- たん白泡消火薬剤にフッ素系界面活性剤（「PFOS」非含有）を添加したDKフロロフォームの一種です。
- 水溶性液体用泡消火薬剤（耐アルコール泡）として、「総務省告示第559号（平成23年12月21日）」に適合しています。優れた耐アルコール性能を有し、数多くの水溶性液体危険物火災に有効です。また、石油類火災に対してもDKフロロフォームと同様に優れた消火性能を発揮します。
- 石油類火災に対して、固定式（フォームチャンバー、泡モニター）消火方法に加え、タンク底部からの泡注入方式（SSI方式：Sub-Surface Injection System）にも適用します。また、粉末消火薬剤との併用も可能です。
- 使用水質を選びません。（淡水・海水または硬水に対して有効にご使用になれます。）
- 経年変化が少なく、安心して使用できます。
- 鋼、黄銅及びアルミニウムに対して著しい腐食性を有しません。

### 性状（実測値の一例）

試 験 項 目	規 格	DKアルコフォーム（6-6）	
外 観	——	黒褐色粘稠液	
比 重 (20℃)	1.10～1.20	1.140	
粘 度 cSt (=mm <sup>2</sup> /s)	400以下/-10℃	70.0	
	/20℃	15.0	
	/30℃	11.0	
水素イオン濃度 (20℃)	6.0～7.5	7.00	
沈 殿 量 (容量%)	0.10以下	痕 跡	
泡水溶液の沈殿量	淡水 (容量%)	0.05以下	
	合成海水 (容量%)	0.05以下	
引 火 点 (℃)	60以上	なし（沸点約103）	
流 動 点 (℃)	-12.5以下	-12.5	
鋼等の腐食による質量損失（鋼、黄銅、アルミニウム）	3 (mg/20cm <sup>2</sup> ) /day 以下	3.0以下	
水 質	淡水・合成海水	淡 水	合 成 海 水
膨 張 率 (倍)	6以上	8.0	7.0
25%還元時間 (分：秒)	1以上	5：16	6：30
消 火 時 間 (分：秒)	5以内	2：40	3：25
密 封 性	再燃しないこと。	良 好	良 好
耐 火 性 (cm <sup>2</sup> )	900以下	110	70

規格：「泡消火薬剤の技術上の規格を定める省令に基づく。（自治省令第26号：昭和50年12月9日）」

# たん白泡消火薬剤

## DKアルコフォーム（6-6）（耐寒型）

### 水溶性液体用泡消火薬剤について（耐アルコール泡）について

水溶性液体用泡消火薬剤（耐アルコール泡）の消火性能評価試験方法は総務省告示第559号（平成23年12月21日）〔旧：危険物の運用指針〔消防危第24号（H.1）および改正消防危第71号（H.3）〕通達〕で基準が示されています。

水溶性の危険物にあつては、下記に定める泡水溶液量および放出率に品名に応じて定められた係数を乗じた値以上とすること。なお、この場合、消火薬剤の選択に当たっては、危険物の種類ごとに指定された代表物質または当該消火薬剤を適用しようとする危険物を用いた試験により適応性を有する消火薬剤であることが確認されていることが必要となります。

様々な水溶性液体が種別（アルコール類、エステル類、ケトン類等）ごとに分類されており、所別欄に該当するもののうち細区分の品名に係数が定められています。また、細区分欄に品名が掲げられた危険物は種別ごとに指定された代表物質（アルコール類ではメチルアルコール）の消火性能評価試験から係数を決めることができます。

（表）

I型放出口		II型放出口		IV型放出口	
泡水溶液量(L/m <sup>2</sup> )	放出率(L/m <sup>2</sup> ・min)	泡水溶液量(L/m <sup>2</sup> )	放出率(L/m <sup>2</sup> ・min)	泡水溶液量(L/m <sup>2</sup> )	放出率(L/m <sup>2</sup> ・min)
160	8	240	8	240	8

### 取扱い上の注意事項

1. 高温環境下では薬剤の劣化が促進されます。使用温度範囲内で貯蔵してください。
2. 型式の異なる薬剤との混合は避けてください。
3. 貯蔵の際は水および異物の混合はしないでください。
4. 貯蔵の際はみだりに開栓しないでください。密閉し、緊急火災時に対応できる状態で貯蔵してください。
5. 皮膚に付着した時、目に入った時は水で洗い流してください。
6. 泡水溶液および不要になった泡消火薬剤は産業廃棄物として処理してください。
7. 定期的に性能検査を実施し、泡消火薬剤の性能を確認してください。

### 容器

1. 20Lポリエチレン缶（JIS Z 1706 相当品）
2. 200L 鋼製ドラム缶（JIS Z 1601）
3. 1,000L コンテナ
4. タンク受検（5,000L 以上）タンクローリー車

●お求め、お問い合わせは

**DKS** since 1957  
の泡消火薬剤

 **第一化成産業株式会社**

<http://www.d-kasei.co.jp>

川越工場：〒350-1165 埼玉県川越市南台1丁目6番地4

エアフォーム事業部 営業部

TEL 049 (242) 7785 FAX 049 (244) 2934

（本カタログの内容はお断りなく変更する場合がありますので、ご了承下さい。）